NIPPON LEARNING

URBAN RESEARCH DOORS 007

Door to Japan

日本を知るきっかけづくり　第７回　箒（ほうき）

URBAN RESEARCH DOORS

アーバンリサーチドアーズが紹介するのは、長く大事に使いたい日本のいいものと、それをつくる人たち。第7回目は、神奈川県中津で箒（ほうき）の博物館の運営（うんえい）や箒の製造（せいぞう）を手がける「まちづくり山上」の柳川直子（やながわなおこ）さん。現代の暮（く）らしに合わせた箒の新しい使いかたを教えていただきます。

箒のここが魅力！

自然に寄り添い育てた材料で、職人が心を込めて手作業でつくる。箒は、ただの日用雑貨ではなく、歴史や職人の技を感じることができる文化そのもの。

――柳川直子――

How to use a Broom！ 箒を使ってみよう

床を掃くだけではない、別の用途にも箒を使ってみましょう!

1 洋服のほこり

お気に入りの洋服は長く使いたいもの。洋服が汚れていたらやさしく箒ではらいましょう。汚れのない洋服を着ると、気持ちがいいですね。

2 消しゴムのかす

しっかり勉強したあとの机の上は消しゴムのかすがいっぱい。そのまま床に落としたりせずに、箒で集めてゴミ箱へ捨てましょう。

3 パンくず

おいしいトーストを食べたら出てくるパンくずも、箒があればさっと掃き集められます。家族みんなで使うテーブルの上は、きれいにしておきたいですね。

4 キーボードのほこり

知らない間に汚れてしまっているパソコンのキーボード。溝につまったほこりは、箒でなでるようにかき出しましょう。

―― 箒の歴史 ――

箒は人々の生活の知恵として生まれ、古来より世界中に存在しました。日本で最も古い箒は、古墳時代中期のもの。当時の箒は小枝を束ねただけのもので、用途は定かではありません。清掃用具として使われたのは平安時代になってから。ほかにも祭事や年中行事の道具としても用いられていたようです。高度経済成長期以降、掃除機の普及で日本人の生活様式が変化し、箒の需要は激減。現在は、ていねいに手作業でつくられる箒が、美しい道具としても見直され、世代を超えて必要とされる存在になりつつあります。

ななめ箒

厚みが薄く、よくしなる。机の上や棚の掃除に適している。

山型箒

両角が使えるので、隅を掃きやすい。机の上や棚の掃除に。

筒型小箒

パソコンまわりやコーヒーミルなど、細かな掃除に活躍。

洋服ブラシ

厚手なので、生地の掃除に最適。ソファや車のなかの掃除にも。

柳川直子　神奈川県生まれ。箒の製造・販売を行う箒問屋の娘として育つ。2003 年、箒を現代の暮らしにあったかたちで復興するために、株式会社まちづくり山上を設立。同時期に、中津箒の歴史や国内外の箒を展示する博物館「市民蔵常右衛門」を開館し、若手職人の育成や箒の原料であるホウキモロコシの栽培など、中津箒の継承に取り組んでいる。

写真：福田真知子

URBAN RESEARCH
DOORS

新しい価値観へのトビラを開く“きっかけ”に出会えるお店

使うたび、つくり手の思いが感じられるていねいな仕事。時代を超えて愛され、長く使えるデザイン。アーバンリサーチドアーズは、そんな価値あるものたちに込められた思いを大切に伝えるお店です。「着る・食べる・住む」という日々の暮らしを、豊かにここちよく。今ある自分たちの生活を見つめながら“あなたらしい”スタイルを探しにきてください。

URBAN RESEARCH DOORS のオリジナル家具「Bothy（ボシー）」

私たちが提案する家具は、木の温もりや表情を感じていただけるようにオーク無垢材を使用しております。山小屋を意味する言葉、「Bothy（ボシー）」。日々の住空間を共にする家具に、ほんの少しだけアウトドアのエッセンスを加えたような、本来の木の表情やぬくもりを感じるシリーズです。urdoors-furniture.com/

play to learn worksheet 159 © mammoth × urban research doors 007